

◆◆◆風の色◆◆◆

■学校だよりの冒頭に紹介した詩「風の色」。

この詩を使って私は学習参観日にこんな授業をしたことがあります。

風の色

春の風は やわらかいピンク のおでこに ロづけしたから

夏の風は 力強い白 のお城を つくってきたから

秋の風は にぎやかな黄色 と あそんできたから

冬の風は すきとおった白 と あくしゅしたから



■だまって題名を黒板にゆっくり書くと、「なんだろう」「風の色？」「ないやん」とつぶやく子どもたち。それでもだまって一連から書き出します。

四角で言葉をかくしたところにくると、「何？」「あっ、わかった！」「桜やない？」つぶやきが大きくなってきます。観ている保護者の皆さんも笑顔です。

■「まずは春のまとまりのところ。かくれた言葉を見つけましょうか。

ところで詩のまとまりのこと。たしか、段落、でしたね」「違う！」

「ごめん、間違った。場面、でしたね。」「違うって！！」「また先生わざと言いよろ？」

「あれっ、何だったっけ？」「連！」「そうやった。先生すっかり忘れてた…」

子どもたち、国語の用語をちゃんと覚えています。

■「春の連。かくれた言葉は何だろう。思いついた人、みんなに説明してください」

「桜だと思います」「同じです」「桜。同じという人多いね。お家の方にも聞いてみようか」いきなりの無茶ぶり。保護者の皆さん、ざわついていますが構わず指名します。

「えっと…、恋人…」「えっ？聞こえないです。もう一度大きな声で」

「こ・い・び・と、です！」「えーっ」「なんでー？」子どもたちは大さわぎ。

「恋人だって。桜と恋人。なんでそう考えたのかな。わけが知りたいね。

それぞれ聞いてみたくない？」「うん！」「聞きたい！」

子どもたちの目はキラキラ。保護者の皆さん、ハラハラです。